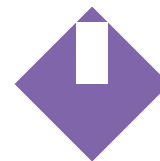


公認会計士稲門会



「伝統の継承と未来への変革 ～会長就任二年の歩みを振り返って～」



脇 一郎
(公認会計士稲門会 会長)
(1993年 商学部卒業)

はじめに

盛夏の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、常日頃の公認会計士稲門会へのご支援とご協力に感謝を申し上げます。

2025年度は、公認会計士試験における早稲田大学の合格者数が大きく伸び、また当会としてもデジタル化を本格的に進めた節目の一年となりました。私が杉田純前会長より会長職を引き継いでから二年、伝統ある当会の灯を絶やすことなく、いかに次世代へと繋いでいくかを念頭に、役員一同と共に歩んでまいりました。本稿では、この一年間の主な活動をご報告するとともに、私が就任してから二年間の総括を述べさせていただきます。

第一部：会長動静（2025年7月～2026年7月）

この一年間、私は「開かれた稲門会」と「他校・母校との連携強化」を軸に、対外的な交流と内部の基盤整備を進めてまいりました。各活動は、若

手の参加促進、公認会計士業界内での早稲田の存在感向上、そして会員同士のつながりの再構築に資するものでした。

- 2025年 7月10日：公認会計士稲門会
定時総会・懇親会（大隈会館）
- 2025年 7月24日：公認会計士試験合格祝賀会
打ち上げ懇親会
- 2025年 7月30日：明治大学公認会計士会
懇親会（来賓出席）
- 2025年 8月30日：税理士稲門会 定期総会
（来賓出席）
- 2025年 9月17日：公認会計士稲門会 役員会
- 2025年11月13日：女性会員の集い「ワセジョ会」
- 2025年12月23日：公認会計士稲門会
役員会・忘年懇親会
- 2026年 1月 9日：若手懇親企画懇親会
- 2026年 2月10日：日本大学桜門会計人会
総会・合格祝賀会（来賓出席）
- 2026年 3月25日：早稲田大学会計研究科
学位授与式（会長祝辞）
- 2026年 3月25日：公認会計士三田会
祝賀懇親会（来賓出席）
- 2026年 3月26日：公認会計士稲門会
公認会計士試験合格祝賀会
（リーガロイヤルホテル東京）
- 2026年 6月10日：早稲田大学校友会
「職域稲門会合同会議」出席
- 2026年 6月16日：公認会計士稲門会 役員会
- 2026年 7月14日：公認会計士稲門会
定時総会・懇親会（大隈会館）

第二部：公認会計士稲門会 活動総括

1. アジア留学生奨学金給付事業：

30年続く「早稲田の誇り」

当会が30年以上にわたり継続してきた「アジアからの留学生への奨学金給付」は、職域稲門会の中でも唯一無二の事業です。累計116名、総額5,800万円に達する支援は、早稲田大学が掲げる国際化と人材育成への直接的な貢献であり、当会の精神そのものです。異国の地で会計学を志す留学生の真摯な姿勢に触れるたび、この事業を守り続ける意義を強く感じます。維持会員の皆様の年会費が、世界と日本を繋ぐ架け橋となっていることは、当会の最大の誇りです。今後も持続可能な形でこの事業を継続し、さらなる発展を目指してまいります。

2. サステナブルな運営：

事務局DXと新会員プランの導入

組織を永続させ、会員の皆様がより参加しやすい環境を整えるため、本年度は運営基盤の強化に取り組みました。

① 会費支払・イベント申込への「Peatix」導入と、利用に伴う会費割引の実施

事務局の作業負担を軽減するため、Peatix経由での決済を推奨しております。これに伴い、Peatixを利用された場合には会費を5%値引き（正会員：8,000円→7,600円、準会員：4,000円→3,800円）といたしました。

② 「終身会員プラン」の新規設定

会の長期的・安定的な財政基盤を構築するため、新たに「終身会員プラン60(15万円)」と「終身会員プラン65(12万円)」を設けました。長期にわたり当会を支えてくださる皆様への選択肢を増やすことで、組織の安定化を図ります。

③ 会報配布形態の変更

昨今のコスト高騰を受け、本年は「はがき

案内とQRコードによるPDF閲覧」を基本としています。健全な財務体質を次世代へ引き継ぐための合理化を進めております。これらの施策は、会員の利便性向上と組織の持続可能性を両立させるための重要な一歩です。

3. ネットワーキングの強化：

若手・他校・現役生を繋ぐプラットフォーム

「早稲田が好き」という想いを、実利ある絆へと昇華させるため、世代を超えたネットワークの再構築に注力しました。2025年公認会計士試験では、早稲田大学の合格者数が149名（公認会計士稲門会調べ）に達し、前年から大きく躍進しました。学位授与式や合格祝賀会で彼らと直接対話し、温かく稲門会へ迎え入れることができたことは、本年度最大の成果です。また、今回の新合格者祝賀会には、日本公認会計士協会の南成人会長を、歴代初めて当会のゲストとしてお招きすることが叶いました。協会トップより直々に祝辞をいただいたことは、新合格者への力強い激励となっただけでなく、会計士業界内における当会のプレゼンスと結束力を改めて示す貴重な機会となりました。他大学会計士会との交流もさらに深化しており、若手・中堅・ベテランが自然に交わる「唯一無二のコミュニティ」として、当会の価値は今後さらに高まっていくと確信しております。

結びに代えて

私が会長就任時に掲げた「早稲田が好きで、懐かしく思われたら、いつでもお越しく下さい」という言葉。この二年間、その想いを形にするために走り続けてまいりました。

2026年度は、149名の新しい仲間を迎え、伝統を重んじつつも柔軟に変革を進め、当会をさらに力強い組織へと育ててまいります。今後も、総会・イベント・各種企画を通じて、皆様と直接お会いできる機会を増やしていきたいと考えております。会員の皆様には、引き続き温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

「公認会計士稲門会奨学事業」

- 2025年度奨学事業報告 -



(奨学担当副会長)

山田 眞之助

(1980年 商学部卒業)

日ごろ奨学事業を支えていただいている皆様には敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

2025年12月22日(月) 大隈ガーデンハウスにて総長招待の指定寄付奨学生の集いが開催されました。

奨学金寄付は「広く軽く」を基本方針とし、より多くの皆さまに無理のない範囲でのご支援をお願いしています。引き続き本事業のために皆さまのご協力を賜れば幸いです。なお、寄付の申し込み方法は「公認会計士稲門会奨学金へ寄付のご案内」をご参照ください。

「2025年度総長招待 指定寄付金奨学生の集い」
公認会計士稲門会 奨学生集合写真



お写真の左から以下のとおりです(敬称略)

前列 武黒 麻紀子 (法学学術院教授 学生副部長)
山田 眞之助 (奨学担当副会長)
タミマ (奨学生 バングラデシュ)
後列 シン ゲンリン (奨学生 中国)
キム イクス (奨学生 韓国)

2025年度の事業実績

1. 奨学金の給付状況

大学より次の3名を推薦いただき、各人に50万円を給付しました(学年は給付時)。

- ◆ TAMIMA タミマ
大学院社会科学系研究科 PhD2年 バングラデシュ
- ◆ 申 彦麟 シン ゲンリン
大学院日本語教育研究科 修士2年 中国
- ◆ 金 益洙 キム イクス
大学院アジア太平洋研究科 修士2年 韓国

2. 奨学事業収支年度別一覧

(単位:万円)

年 度	1991~2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	累 計
寄付金収入	6,081.5	180	172.6	119	149.5	56	6,758.6
(寄付者数)	(1,873名)	(42名)	(38名)	(28名)	(33名)	(22名)	(2,036名)
奨学金給付額	5,800	150	150	150	150	150	6,550
(奨学生数)	(116名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	(131名)
資金繰越残高	281.5	311.5	334.1	303.1	302.6	208.6	

3. 2025年度寄付者芳名(順不同・敬称略) 2026年3月31日現在

古谷伸太郎 近野 博 山口 俊明 袖山 裕行 知野 雅彦 塚田 知信
 奥山 章雄 富永 和也 池之上孝幸 藤田 世潤 佐藤 正典 尾碕 隆昌
 長峯 徳積 鈴木 豊 山田眞之助 金田 賢二 高井 宏司 種田ゆみこ
 小暮 和敏 飛永 信雄 安村 長生 久保 直生
 (以上22名)

「大学の内部監査について」



奥村 雅史
(早稲田大学教授)

大学人としての新しい視座

4月1日付で、早稲田大学の監査室長を拝命いたしました。これまで自らが所属する商学学術院という枠組みを中心に研究・教育に携わってきた私にとって、内部監査という職務は初めての経験ですので、現在はまだ、この職務を通じてどの程度の貢献ができるのだろうかと不安を感じているところです。しかしながら、同時に、組織全体を俯瞰し、未知の領域の詳細を理解することが求められるこの立場は、大学人として新たな視座を得るための極めて貴重な機会であると感じています。

大規模組織と監査

本学は13学部、22の研究科・専門職大学院を擁し、学内者として、学生がおよそ4.5万人、教職員（非常勤講師等も含む）が5千人を超える、計5万人規模の巨大組織です。多様な専門性に基づく研究・教育活動が日々展開されるこのような大規模かつ複雑な組織において、監査はその適切な運営の根幹を成すものであり、組織が持続的かつ健全に成長するために欠かせない要素です（釈迦に説法ですね）。企業の場合と同様に、一般に大学の監査体制は、外部監査、監事監査、内部監査から成る「三様監査」で構成されており、監査室は内部監査の遂行とともに、外部監査や監事監査のサポートや調整を主な任務としています。

価値創造とリスクの共存

大学の最重要ミッションは「新しい知の創造」にあり、大学は価値創造的な業務を常に遂行する組織です。この目的を効率的かつ確実に達成するためには、その組織と活動が機動的で柔軟でなければなりません。なぜなら、斬新なアイデアや創

造的な発展の「種」は、既存の枠組みを逸脱しようとしながら育つことが多いからです。このように、大学はそのミッションの性質上、常に新たなリスクが生じる組織です。特に創造的なエネルギーが生まれる現場では、管理から自由であろうとする力が働きます。リスクは組織にとっての脅威であると同時に、活動が価値創造に向かっている証左でもあります。したがって、過度な統制が価値創造の原動力を削いでしまわないよう、慎重な舵取りが求められます。

基盤としての「人」

就任から間もない今、私が実感しているのは「人」の重要性です。「組織は人なり」と言われるように、監査の視点においても「人」こそが統制環境の基盤となります。システムによるリスク対応も重要ですが、ミッション達成に向けて組織を活性化させつつ、適切にリスクを管理できるのは、5万人におよぶ学生・教職員一人ひとりに他なりません。リスクを一方向的に回避するのではなく、価値創造を優先しながらもリスクを自覚し、適切に対応できる組織文化と人づくりが不可欠であり、これを、さらに増進することが大学のマネジメントの視点からは望まれます。

内部監査と価値創造

このようなことは、まさに、「言うは易く行うは難し」ではありますが、内部監査においては、単なるリスクの指摘に留まらない貢献を目指すことが重要だと思います。各箇所・部門との対話を通じ、業務改善や組織運営の高度化に資する提言を行うことで、統制と自由の間の良好な緊張関係を意識しながら、本大学が機動的かつ柔軟な組織であり続けるようサポートしていきたいと考えています。

任期中は、内部監査が「知の共同体」である大学に対してどのような価値を提供できるのか、大学人の一人として探求してみようと思っています。環境変化の激しい現代において、大学の外だけでなく内でも、いろいろな風が吹き荒れています。どのような強風にも折れることなく成長し続ける、しなやかで逞しい大学の実現に貢献できるよう、大学人として、知的好奇心をもちながらこの職務に、取り組んで行きたいと考えています。今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「生成AIと教育現場」



川村 義則

(早稲田大学教授)

(1989年商学部卒業)

2022年11月におけるChatGPTのリリースから、人類の生活の様々な局面で生成AIによる変化が生じている。もともとAI(人工知能)の発達によって、多くの職種が衰退すると言説があり、会計・監査の領域はその代表例であった。生成AIの影響は、当初予測されていた領域に先んじて、画像・映像・音楽などの創造性が求められる領域において顕著であった。

教育の現場においても、生成AIの影響は、甚大である。生成AIのリリースがあった直後は、プロンプトを上手に作成して、文章の作成に利用することが多かったように思う。何らかの課題文に対して、生成AIがレポートを作成してくれる。当然、授業で提示したレポート課題に対して、学生も生成AIを利用して回答してくれるようになる。当初は、生成AIが作文してくれるので、その記述が正しいものであるのか、根拠をもって記述されているのかを確認するように、学生に指導するのが一般的であった。実際、参考文献リストを初期の生成AIに作成させると、架空の論文をそれらしい著者名・論文名・雑誌名で作成してきた。しかし、この真正性(authenticity)の問題に対しては、早々にリファレンスを提供するなどの対応が採られ、2026年にもなると、相応のクオリティが担保されるようになってきた。(それでも、膨大な言語データを分析させると、生成AIが(電気代を節約して)他の情報を参照してしまうハルシネーションの問題は頻繁に指摘されるところである。)

一方で、教員の方でも、学生のレポートを生成AIを使って評価することが技術的には可能な状態にある。評価のポイントなどを指定して、100点満点で評価してください、といったことは既に可能であり、情報セキュリティや教育倫理などの課題が解決されれば、次の展開も見えてくる。(ちなみに、学術誌の世界では、

AIで論文を書いてAIで査読する、という状況が生まれつつある。)

会計研究科のワークショップ科目では、会計シミュレーションゲームを学生に作成してもらうという課題を提示している。生成AIの登場前はエクセルなどを使ってゲームのロジックを表現するプロセスを教育するものであった。昨年度実施した科目では、学生グループが生成AIを活用してゲームのアプリを作ってくるようになり、少なくとも見栄えやゲーム性は結構な水準のものであった。生成AIは使ってはいけませんといった教育をするよりも、リミッターを外して学生の創造性を掻き立てる教育をする方が遥かに面白い展開となりうる。

2026年度は、会計研究科で「グローバル・アカウンティング」という科目を新設して、会計と英語のシナジーを高める授業を実施する。公認会計士試験で英語の出題することへの対応するための科目でもあるが、常々、学生に英語の会計的なニュアンスをしっかりと伝えたいと思っていて、そのための教材の作成を進めている。最初の2章ほどを自力でドラフトして、その後は生成AIを活用してみた。単語リストやIFRS準拠の開示例などは、それらしいものを生成してくれるので大変便利であった。また、英単語を勉強するためのアプリも開発して、単語の意味や例文を学ぶことができるようにしている。

さらに、論文の読解を支援してくれるAIアプリも開発されている。難解なトップジャーナル論文も、PDFを読み込ませれば、日本語で分かりやすく音声や動画で解説してくれる。筆者が作成した教材も、アプリに読み込ませれば解説動画を作成してくれるし、関連する小テストなども生成してくれる。ふと立ち止まると、AIが授業をしてくれるようなもので、AIに作成してもらった教材を生身の教員が苦勞して説明するようであれば、教員もAIに取って代わられる未来が見えてくる。

そのような話の一方で、このままでよいのかと疑問に思うことも多々ある。例えば、英語の論文を生成AIが翻訳してまとめてくれるからといって、英語の論文を読解するための学習をしないではよいのか。筆者の学生時代を思い起こせば、一語一語を(紙の)辞書で拾って、構文や文法を勉強して、ようやく論文の内容が頭に入ってきたものである。論文の査読はAIがやってくれるから、論文を批評するトレーニングをしなくてよいのか。会計データはAIが処理してくれるから、簿記は勉強しなくてよいのか。財務諸表はAIが読んでくれるから、財務諸表の読み方も勉強しなくてよいのか。もちろんすべてを勉強するわけにはいかないから、人生における「選択と集中」が必要であるということであろうか。色々と考えさせられる昨今である。

「2025年公認会計士試験 合格祝賀会」



白井 亨

(後進育成担当副会長)
(教育学部国語国文学科卒業)

本年2026年3月26日(木)にリーガロイヤルホテル東京3Fロイヤルホールにて、2025年公認会計士試験の合格祝賀会を開催いたしました。出席者数は、前年度174名(合格者79名含む)に対し、本年度186名(合格者99名含む)と大幅増になりました。来賓としては、大学教授、各職域稲門会の先生に加え、日本公認会計士協会の南会長にもご来場の上ご挨拶を頂戴しました。お忙しい中ご来場下さいました先生方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、本祝賀会は他大学で一般的な大学主催ではなく、本公認会計士稲門会が主催しております。会の準備・運営は、私ども後進育成部会だけでなく、懇親部会の皆様、その他多くの本会の皆様にご協力を頂いております。昨年までは商学部の公認会計士講座の学生の方々にお手伝い頂いておりましたが、同講座の終了を受け、新たに懇親部会に参加して下さっている若手幹事の方々に業務を分担頂きました。皆様、ご協力有難うございました。

祝賀会の収支ですが、本年も物価高騰により会場費用等が上昇する中で、多くの合格者の会費無料も維持し、費用は大幅増となりました。一方で、役員・会員の皆様からの会費をアップさせて頂いたことに加え、大学を含む各法人・個人の皆様からの賛助金が大幅に増加したため、収入が費用を上回る結果となりました。ご賛助頂きました16の法人・団体、各個人の皆様には多大なご支援に深謝申し上げます。

早稲田大学・大学院出身の合格者数が更に増え、合格祝賀会、引いては本稲門会が盛り上がるよう取組みを進めて参りたいと考えております。本会役員・会員各位におかれましては、引続きのご支援・ご協力を賜りたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和7年 公認会計士試験合格者 (公認会計士稲門会調べ)

(主な大学別合格者)

	大 学 名	人数		大 学 名	人数
1	慶應義塾大学	177	6	立命館大学	55
2	早稲田大学	149	7	東京大学	54
3	明治大学	81	8	京都大学	49
4	中央大学	64	9	神戸大学	44
4	同志社大学	64	10	一橋大学	41

□ 令和8年3月26日 合格祝賀会



乾杯



新人紹介



脇 一郎 会長



日本公認会計士協会
南 成人 会長



秋葉 賢一 教授



参加者集合写真

「ワセジョNW～女性会計士の 現状・部会活動」



種田 ゆみこ
おいだ
(女性部会 副会長)
(1989年 商学部卒業)

★ワセジョ会計士NWこと女性部会

女性部会は、担当副会長の種田と常任幹事の矢野奈保子さん、藤森恵子さん、大野聡子さん、今西紘子さん、小西めぐみさん、林田絵美さんを中心に、「男女入部可能」をモットーに運営しています。教務部会副会長の関根愛子さんには顧問として大学連携を、広報部会副会長の抜水信博さんにはイベント写真撮影をサポート頂いています。

★幹事会

LINEとメール、時々リアルに個別対面

★イベント

1) 2025/11 第4回稲門会女性部会懇親会

@ザ・レギャン・トーキョー
(渋谷の天空リゾートレストラン)

限られた時間で懇親会の満足度をより高めるために、今回は「お互いをよく知る！」ことこそが交流会の醍醐味という原点に立ち返り、例年のような対談企画をせず、自己紹介と会務紹介に大半の時間を費やしました。今回も小西幹事セレクトで学生時代の早稲田のテリトリーから出た渋谷、かつ超おしゃれなお店で、ワセジョも「女子っばい！」と大満足。男女24人参加

2) 2026/3 公認会計士合格祝賀会

@リーガロイヤルホテル東京

今年は、舞台上で各部会の担当副会長（女性部会は種田）の紹介だけゆえ、会場内で女性部会のPRとLINEの入会勧誘を実施。さ

らに、ホテルのセラーバーでの2次会には、女性のみならず、協会長や抜水・白井副会長など男性陣や早稲田大学校友会担当の本間知佐子様もと多数参加頂き、非常に濃密な時間となりました。

3) 2025/11 公認会計士稲門会×TAC早稲田校受験生応援セミナー

女性会計士部会常任幹事で早稲田大学ベンチャーズ株式会社パートナー/CFOの大野聡子さんによる受験生に向けてキャリアの講演が大変好評でした。

★方向性

1) ワセジョ会計士受験生の増加を目指す

2025年公認会計士試験最終合格者数1,636人のうち女性392人で、女性比率24.0%と比率が上昇していますが、「公認会計士稲門会調べ」によると、早稲田大学・大学院出身の補習所登録者数149人のうち女性46人、女性比率30.9%。公認会計士協会の女性会計士活躍促進協議会のKPI同様に、試験合格者の女性比率3割を目標に、大学と連携して取り組んできましたが、早稲田はそれをすでに超えています！（自慢！）

2) 女性部会 Facebook への投稿を増やす

3) 年1回以上イベントの開催

4) 公認会計士三田会女性会計士との交流 (不定期)

★最後に

Facebook を開設ゆえ、ぜひ参加申請下さい。

■ 公認会計士 稲門会「ワセジョ部会」FB：
<https://www.facebook.com/groups/447086503596042>



「ますますパワーアップするワセジョ会」



小西 めぐみ
(女性部会 常任幹事)
(1998年 商学部卒業)

公認会計士稲門会女性部会（通称ワセジョ会）では、会員相互の親睦を深めるため、毎年恒例の交流会を実施しております。2025年度の活動の様子をご紹介します。

2025年11月13日、渋谷のリゾートレストラン「レギヤントーキョー」にて第4回目となるワセジョ会を開催いたしました。今回は女性18名、男性6名の計24名が参加し、都会の喧騒を離れたリゾート感あふれる空間で眼下に広がる夜景を眺めながら立食パーティーを楽しみました。

回を追うごとに新たな仲間が加わり、毎年確実にパワーアップしているワセジョ会ですが、今回はこれまで以上に活気と笑顔溢れる会となりました。

毎回必ず参加してくださる公認会計士稲門会の協会長に加え、今回は早稲田大学校友会の萬代晃代表幹事（開催当時）と本間知佐子事務局長（開催当時）が初めてご参加くださいました。大変気さくなお人柄のお二人と楽しく談笑し、母校や校友会との絆をより身近に感じることができました。

ワセジョ会では毎回、開催後に女性部役員全員による「振り返りの会」を実施しています。今回も良かった点や改善すべき点について活発な議論を繰り広げました。こうして参加者の皆さまの声を反映し、一つひとつ工夫を重ねていくことで、より居心地の良い会を目指しております。

プロフェッショナルとして社会で活躍される中、一歩ここに足を踏み入れれば、利害関係のない「早稲田」という共通言語で語り合える。そんなワセジョ会は、みなさまにとっていつでも帰ってこられる「ホーム」であり続けたいと願っています。

益々発展を続けるワセジョ会へ、初めての方も、お久しぶりの方も、どうぞお気軽に足をお運びください。皆さまの参加を心よりお待ちしております。

ワセジョ会は2024年12月にLINE公式アカウント『ワセジョ会（会計士稲門会）』を開設しました。こちらでワセジョ会の活動予定やイベントのご案内をしております。なお、第5回ワセジョ会は2026年11月13日（金）19:00より都内レストランにて予定しております（詳細は別途LINE公式アカウント等でご案内します）。LINE公式アカウントの新規メンバーは常時募集しておりますので、こちらのQRコードからぜひメンバー登録をお願いいたします。



■ 令和7年11月13日 第4回公認会計士稲門会女性部会(ワセジョ会)



■ 公認会計士を目指す受験生向けイベント

令和7年11月29日 大野女性部会常任幹事(TAC 早稲田校)

「公認会計士受験生応援セミナー 挫折を乗り越えたからこそ今がある！」

公認会計士稲門会 × 資格の学校TAC

公認会計士
受験生応援セミナー

「挫折を乗り越えたからこそ今がある！」
— 挫折を乗り越えたからこそ今がある！ —
公認会計士を目指す受験生にとって、試験勉強のモチベーションを維持し、合格まで粘り続けることが重要です。本セミナーでは、先輩から学ぶだけでなく、質疑応答を通じて疑問を解消し、合格への道筋を明確にします。

11.29(土) 参加無料
14:00~15:00 学費予約制

講師
大野 智子 氏
大野 智子 氏
大野 智子 氏
大野 智子 氏

■ TAC早稲田校受験生向け教室
■ 大野 智子 氏 講師によるセミナー
■ 質疑応答コーナー
■ 懇話会

〒162-8601 東京都豊島区早稲田3-1-1
TAC早稲田校 03-5287-4940



「早稲田大学起業家支援に向けて 起業支援アクセラ部会活動報告」



江黒 崇史
(起業支援アクセラ部会副会長)
(1999年商学部卒業)

新緑の候、公認会計士の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。日頃は公認会計士稲門会、起業支援アクセラ部会へのご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、公認会計士稲門会アクセラ部会でございますが、2025年11月に早稲田大学アントレプレナーシップセンターにおいて若き起業家向けに資金調達・資本政策セミナーを実施させていただきました。このセミナーはもともベンチャー稲門会と共催していたセミナーを早稲田大学のアントレプレナーシップセンターから「毎年の定例セミナーとして開催を」とご依頼を受け担当させていただきました。また、2026年1月には早稲田大学大学院ビジネススクール教授である長谷川先生の早稲田大学スタートアップファクトリーの最終審査に参加させていただきました。この最終審査員についても有り難いことに毎年の恒例イベントとさせていただいております。

さらに昨年度の新しい展開として早稲田大学で昨年発足した WASEDA Startup Support Committee の委員に江黒が公認会計士稲門会より任命されました。本委員会活動を通じて早稲田大学の起業家支援に公認会計士稲門会として関与してまいります。

今年度においては新たにファイナンス稲門会と法曹稲門会との合同企画として100人カイギという稲門会同士の相互交流と活性化を図るべく取り組みを進めております。

昨年は東京証券取引所におけるグロス市場改革の動きに合わせて新規上場企業の数が増え、起業家をめぐる環境に大きな変動が見られました。

起業支援アクセラ部会としては早稲田大学起業家の支援に向け公認会計士稲門会の皆様、他稲門会の皆様と一緒に、一層力を入れていきたいと考えております。今後も公認会計士稲門会の皆様からの変わらぬご指導、ご鞭撻の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

「国連業務に携わって」 — 公認会計士として、国連機関で活動すること —



新井 政明
(1998年商学部卒業)

私は公認会計士として監査法人や事業会社の経験を活かし、現在、国際連合工業開発機関(UNIDO)東京投資・技術移転促進事務所でも活動しています。特に監査法人では監査・アドバイザー業務を通じて海外拠点を支援し、会計専門家としての専門性を磨くとともに、多様な国籍の方々と連携する機会を重ねました。英語での会議運営及びIFRS導入支援などで論点を整理し、プロジェクト前提や相手方の背景を丁寧に確認して合意形成につなげる姿勢は、国連業務でも十分に活かせる大きな支えとなっています。

UNIDOでは、プロジェクトに係る財務報告の適正性確保を主に担当しています。書面・データの検証に加え、財務ガイドラインなどの規程に照らして証憑の整合性、予算執行の妥当性、調達・契約手続の適切性を確認します。また、デスクトップ業務に留まらず、必要に応じて海外の事業実施現場を訪れ、関係者との対話を通じて資金の使途や進捗を確認する現地検査にも参加します。限られた情報から事実関係を立体的に捉え、関係者へ分かりやすく説明することを意識しています。

多様な文化や制度のもとで事業が進む国連の現場では、数字だけでなく背景や前提を理解し、説明責任と実効性の双方を意識した判断が求められます。会計の知識は、資金の透明性を確保し、リスクを早期に把握して関係者の信頼を支えるための基盤だと実感しています。早稲田大学で培った視野と監査法人で習得した専門性を基礎に、会計専門家の観点から付加価値を提供できるよう、現場感覚も大切にしながら今後も研鑽を重ねていきます。加えて、指摘に留めず、各関係者と改善策を擦り合わせ、次の運用に繋げることを心掛けています。

「合格までの道のりと今後の抱負」



佐伯 圭優
(2026年 商学研究科修了)

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿という大変貴重な機会を頂き、光栄に存じます。僭越ながら、私からは合格までの道のりと今後の抱負について述べさせていただきます。

私が公認会計士を目指したのは2020年頃でした。何か資格を取得した方が今後の人生に良いのではと考え、進学先が商学部であったのもあり軽い気持ちで勉強を始めました。公認会計士になれば様々な分野に触れることができることにも魅力を感じていました。しかし、今まで学んだことのない簿記や監査論等の勉強に苦勞し、加えて試験への向き合い方が甘かったこともあり、何度も不合格を経験しました。結果的に合格に至るまで5年もの時間を要し、今回も不合格なら三振するという悲惨な状況でした。最後はこのまま負け続けた状態で終わらたくないという気持ちだけで勉強を続け合格を勝ち取ることができました。このような状況でも最終的に合格できたのは、自分が勉強に向き合う環境を整えてくれた父と母やゼミの教授、ともに試験に向けて切磋琢磨してきた仲間のおかげであり大変感謝しております。

会計士試験には合格しましたが、実務では何度も失敗をしまいチームの役に立てておらず悔しい状況が続いています。今は先輩たちに助けをもらいながら少しずつ前に進んでいる状況です。少しでも早くチームの役に立てるように目の前の監査業務に真剣に向き合いながら成長していきたい所存です。また、公認会計士試験に合格してこれからの可能性が広がったからこそ、英語などの興味をもったことにはより一層、挑戦していきたい自分の可能性を広げていきたいです。

「合格への道のりと今後の抱負」



宇尾 航平
(2023年 社会科学部卒業)

この度は、公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただき、大変光栄に存じます。本稿においては、私が公認会計士を志した経緯、合格までの道のり、今後の抱負について述べさせていただきます。

私が公認会計士を志した契機となったのは、大学一年生時に受けた簿記の講義でした。はじめは「パズルのようで面白いな」というほどの興味でしたが、学習を続けていくにつれ、会計という学問の奥深さに気づき、ますます魅力を感じるようになりました。また、講義の中で公認会計士という資格も知り、はっきりした夢や目標がなかった当時の自分にとって、会計士こそが目指すべき道のように感じられ、学習を開始いたしました。

しかし、合格までの道のりは理想とはほど遠いものでした。大学生時代はゼミに、アルバイトに、サークルに忙殺され、一時期は公認会計士を目指していると口にするのも恥に思えるような生活を送り、大学卒業後もフリーターとして、三年という長い年月をかけ、何とか合格に至りました。フリーターであった期間も、それまでと変わらぬ温かさで支えていただいた家族や友人には感謝してもしきれません。

今後の抱負といたしましては、公認会計士試験に合格したということに適度な自信としつつ、しかしそれにとらわれすぎず、幅広い分野に関する見識を持った公認会計士を目指していこうと考えております。また、前段で述べたような受験生活を送ったからこそ得られたであろう精神力と優しさを自身の魅力として今後の人生を歩んでいく所存でございます。

改めまして、このような貴重な機会を頂戴したことに御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

「合格への道のりと今後の抱負」



二渡 勇太
(政治経済学部4年)

この度は、公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。本稿では、私が公認会計士を志した経緯や合格までの歩み、そして将来への抱負を綴らせていただきます。

私が公認会計士を志す契機となったのは、早稲田大学高等学院在学中に参加したキャリア説明会でした。そこでお話しいただいた先輩は、ご自身の仕事に誇りを持ち、熱意を持って業務に取り組まれていました。その真摯な姿勢に感銘を受け、公認会計士への憧れを抱くようになりました。

大学一年時から学習を開始しましたが、合格までの道のりは決して平坦ではありませんでした。周囲の学生が大学生活を謳歌する中で孤独を感じ、成績が思うように伸びず自暴自棄になったこともあります。しかし、そんな私を支えてくれたのは早稲田の自習室でした。そこには常に泥臭く、必死に自分と向き合う仲間の姿がありました。彼らが黙々と机に向かう背中は何度も奮い立たされ、最後まで走り切ることができました。

合格はゴールではなく、より広い世界へと飛び出すためのパスポートだと思います。受験期に自分を奮い立たせた情熱を、これからはプロフェッショナルとして、社会を動かすエネルギーに変えていく決意です。まずは英語力を磨き、世界を視野にクライアントへ貢献できる専門家を目指して、一歩ずつ着実に歩んでまいります。

最後になりましたが、このような貴重な機会をいただきましたことに、改めて深く御礼申し上げます。公認会計士としての一步を踏み出すにあたり、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「挑戦の軌跡と今後の展望」



田中 みまり
(商学部4年)

この度は、稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。私からは、挑戦の軌跡と今後の展望について述べさせていただきます。

私が会計の面白さに気付いたのは、大学一年次に受講した会計学の授業でした。そこでは、会計が世界の共通言語として機能し、発展途上国の経済発展に寄与した事例を学びました。それまで公認会計士という職業を知るに過ぎなかった私は、この経験をきっかけに、公認会計士を志すようになりました。

受験生活を振り返ると、決して順風満帆ではなく、苦しい時期も多くありました。そのようなときに自分なりに試行錯誤した経験は、継続する力や自ら改善していく姿勢に活きていると思います。

合格後は、多くの方々からお祝いの言葉をいただき、自分が多くの人に支えられていることを改めて実感いたしました。共に歩んできた勉強仲間、常に支えてくれた家族、そして日頃よりご指導いただいている先生方には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

今後は、自身が関心を持つ無形資産の監査を基軸としながらも、様々な業種の監査業務に取り組んでまいります。日々研鑽を重ねる中で私ならではの強みも見出していきたいです。また、単に業務を遂行するだけでなく、関わる方々一人ひとりとの信頼関係を大切にできる会計士を目指してまいります。そして将来的には、自分がこれまでにいただいていた支えやご縁に対して、何らかの形で還元できる存在になりたいです。

改めまして、このような機会をいただきましたことに深く感謝申し上げます。未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく御礼申し上げます。

「公認会計士稲門会ゴルフ部の活動状況について」



小川 明
(1984年 商学部卒業)

新型コロナウイルス感染拡大の影響が収まった2022年より活動を再開いたしました公認会計士稲門会ゴルフ部ですが、協会長はじめ関係者のご協力により多くの方にご参加いただけるようになり、登録者数は50名となりました。

2025年度の活動状況は以下のとおりでした。

2025年公認会計士稲門会 ゴルフ活動報告

開催日	コンペ名	会場	結果(敬称略)
2025/3/30	公認会計士稲門会研修会①	取手国際 GC	優勝：松村 洋季
2025/6/29	公認会計士稲門会研修会②	裾野 CC	優勝：脇 一郎
2025/9/23	公認会計士稲門会ゴルフ	取手国際 GC	優勝：近野 博
2025/10/13	公認会計士早慶対抗ゴルフ	武蔵丘 GC	早稲田の勝利
2025/11/3	十月会ゴルフ	茨城 GC	団体グロス3位、団体ネット2位
2025/11/5	校友会ゴルフ	久邇 CC	団体ネット13位、個人10位

今年度の予定は次の通りです。

2026年公認会計士稲門会 ゴルフ日程

開催日	コンペ名	会場
2026/4/29(水祝)	公認会計士稲門会研修会①	取手国際 GC
2026/6/20(土)	公認会計士稲門会研修会②	裾野 CC
2026/7/11(土)	公認会計士稲門会 NEXT	ひとつのや CC
2026/9/26(土)	公認会計士稲門会コンペ	取手国際 GC
2026/10/12(月祝)	公認会計士早慶対抗ゴルフ	久邇 CC
2026/11/3(火祝)	十月会ゴルフ	茨城 GC
2026/11/4(水)	校友会ゴルフ	久邇 CC

1. 研修会

「研修会」という響きからはゴルフ道を極めるようなイメージを持つかもしれませんが、楽しくゴルフをやりながらスコアアップを図ればと思います。

2. 早慶対抗ゴルフ

例年8月に開催しておりますが昨今の猛暑により開催時期を見直し、今年度も10月に開催する予定です。2022年、2023年、2024年と3連敗しておりましたが2025年度は武蔵丘CCで見事に雪辱いたしました。対戦成績は早稲田大学の29勝13敗と圧倒しております。

3. 公認会計士稲門会コンペ

取手国際GCで恒例の公認会計士稲門会のゴルフコンペです。

大塚宗春先生など元大学教授も参加いただき、和やかな雰囲気の中でゴルフを楽しんでおります。

4. 十月会ゴルフ

公認会計士の大学対抗ゴルフ大会で100名規模の大コンペです。

個人戦と団体戦があり、団体戦はグロスとネット合計スコアで争われます。

ご興味のある方は小川（akky.ogawa@icloud.com）までご連絡ください。

公認会計士稲門会ゴルフ部のFacebookも一度覗いてみてください。



「『学問の活用』を胸に」



申彦麟

(大学院日本語教育研究科 修士2年)

2025年度公認会計士稲門会奨学金を受給いたしました、申彦麟と申します。

このたびは、公認会計士稲門会会報への寄稿の機会を賜り、誠にありがとうございます。また、奨学金という温かいご支援をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。

これまでの歩みを振り返りますと、私と日本語との出会いは、中国・四川省で過ごした中学生の頃にさかのぼります。はじめは一つの外国語として向き合っていた日本語でしたが、学びを重ねるうちに、それは単なる知識や技能ではなく、人と人をつなぎ、自分の思いや考えを世界へ差し出すための大切な「架け橋」のような存在になってきました。日本で学び、研究したいと考えたのは、日本語を教室の中で学ぶ対象としてだけでなく、生活し、悩み、他者と関わる中で息づく言葉として捉え直したいと思ったからです。

早稲田大学への進学を志したのは、多様な背景を持つ人々が集い、それぞれの問題意識を自由に深めることのできる、開かれた学びの場に強く惹かれたためです。早稲田大学の教旨には、「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」が掲げられています。私はその中でも深く励まされてきました。学問の独立とは、自分一人の知識として完結するものではなく、社会の中で誰かの不安を照らし、他者との理解を支える灯火になりうるものだとして理解しています。

学部時代には法学を学び、異なる立場や価値観のあいだに立ちながら、物事を多角的に考える力を養いました。その後、日本語教育研究科に進学し、自身の日本語学習経験や留学生活の中で抱えてきた問題意識を、研究として深める機会を得ま

した。現在の研究では、中国出身の大学院留学生を対象に、上級日本語学習者が日本語を用いて学び、研究し、生活する過程で経験する不安や葛藤に注目しています。

上級学習者は「日本語ができる人」と見なされやすい存在である一方で、高度な日本語使用が求められる場面において、言葉にしにくい不安や戸惑いを抱えることがあります。それは、目に見える言語能力の不足というよりも、他者との関係性の中で自分をどう表現し、どのように場に参加していくのかという、より繊細な問題であると考えています。

今後は、本研究を通して、上級日本語学習者が安心して自分の考えを表現し、学術的・社会的な場に参加できる環境づくりについて考えていきたいです。多文化共生社会を目指すうえで必要なのは、それぞれの人が自分の声を失わずに他者と関わることのできる場を育てていくことだと思います。私は、言葉の使用に壁を抱えながらも、うまく表現できない人々の声を丁寧に汲み取り、形にしていくことに貢献したいと考えています。

将来的には、日本と母国である中国との間で、言語を通して相互理解を深める役割を果たしたいと考えています。早稲田で学んだ「学問の活用」の精神を胸に、研究で得た知見を机上のものにとどめず、教育現場や異文化間の対話の場へと還元していきたいです。そして、言葉を壁ではなく橋として用い、人と人がより深く理解し合える社会づくりに少しでも寄与してまいりたいと存じます。

このたびのご支援を励みに、今後も学びと研究に真摯に取り組み、言葉を通して人と人、そして日本と母国をつなぐ存在となれるよう努力してまいります。改めまして、温かいご支援を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

「絶望的な状況にある人々への希望を求めて」



Tamima

(大学院社会科学部 博士後期課程2年)

公認会計士稲門会会報に寄稿する貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。タミマと申します。この度、二〇二五年度早稲田大学同窓会奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。本奨学金のおかげで、学問に専念できる環境を整えることができました。

私は、学部生時代にバングラデシュでロヒンギヤの方々の凄惨な窮状を目の当たりにし、無国籍状態や強制移動に関する研究を志しました。日本を留学先に選んだのは、学術的知見を深めるためであり、特に

「将来のリーダーを育成する」という理念を掲げる早稲田大学に強い魅力を感じたからです。

修士課程より早稲田大学に在籍し、コックスバザールの難民キャンプにおける女性や少女の人身取引に関する実証研究を行ってきました。現在は博士課程にて、法制度の不備や家父長制が彼女たちを「抽出可能な商品」として構造化してしまう「制度的空白」について、社会法学的分析を深めています。本研究を通じて、抽象的な理論と現場の暴力的現実の架け橋となり、困難な立場にある人々に希望を取り戻す一助となることが私の使命です。

卒業後は大学教員となり、強制移動やジェンダー研究の専門家として次世代を育てたいと考えています。研究者、政策提言者として、社会の脆弱な女性を法的・経済的に守る体系的な変革を推進する抱負を持っています。個人としては、日本で培った高度な研究手法を母国や国際社会の課題解決に還元し、両国の学術的な橋渡し役として、誰もが尊厳を持って生きられる社会の実現に貢献したいと願っています。

(注) イスラム教の関係でマスクをした状態の写真と なっていますのでご了承ください

公認会計士稲門会ホームページのご案内

公認会計士稲門会のホームページ(以下「HP」)の一番の特徴は、「ログイン」ページを設け、会員限定記事の掲載・閲覧ができるようにしてあるところです。早稲田大学名誉教授・大塚宗春先生による「連載企画 早稲田大学の会計学の歩み」を掲載しております。第1回は「大隈重信と会計」です。是非、一度下記のURLまたは2次元バーコードからアクセスをし、会員登録の上、会員限定記事の閲覧をして頂けますと幸いです。

URL <http://www.cpa-tomonkai.jp/>



(広報担当副会長 抜水信博)

「Change Today, Shape Tomorrow」

— 早稲田大学創立150周年記念事業について —



本間 知佐子

(早稲田大学総長室社会連携課)

(1989年第二文学部卒業)

大隈講堂の前に立つと、ふと歩みが緩みます。思索に沈むような面持ちで行き交う学生たちの姿に、かつての自分を重ねる瞬間があります。やがて志を胸に、それぞれの挑戦の場へと歩み出していく背中。鳥のさえずりに混じって聞こえる、未来をやわらかく照らすような笑い声。そして、昔と変わらぬ講堂の鐘の音が、静かに時を刻んでいます。その響きに触れるたびに、ここで過ごした日々が今も自分の内に息づき、これからの歩みを支えていることに気づかされます。早稲田には、人の内に灯をともし、その灯を未来へとつないでいく、確かな力があるように感じます。

早稲田大学は、創立150周年にあたる2032年のその先を見据え、“2050年の未来におけるあるべき姿”として『世界人類に貢献する大学』を掲げています。この実現に向け、全学を挙げて取り組んでいるのが「創立150周年記念事業」です。コンセプトは『Change Today, Shape Tomorrow』。創立者・大隈重信の精神に立ち返り、世界に貢献し続ける大学へと進化することを目指しています。

本記念事業では、教育・研究のさらなる充実に加え、グローバル社会における存在感の向上、社会との連携の強化を柱としています。教育研究拠点の整備、デジタル技術を活用した学びの革新、国際ネットワークの拡充、多様な学生を支える支援体制の充実など、未来を見据えた取り組みを着実に進めています。これらは、早稲田が大切にしてきた「学問の独立」と「進取の精神」を次の時代へとつなぐ挑戦です。

こうした挑戦を支えているのが、校友の皆様です。現在、約70万人の校友の方が世界中で活躍されています。その一人ひとりが「早稲田を通じて社会をより良くしたい」と願い、それぞれの立場で責任を果たしていくことで、社会は確実に前へと進んでいくと思います。

とりわけ、公認会計士として社会の公正と信頼を支えておられる稲門会の皆様は、その中心的な存在です。高度な専門性と倫理観をもって社会に向き合っ

てこられた皆様の姿は、早稲田の精神そのものといえます。その志が早稲田へと還り、次の世代へと受け継がれていくことで、より大きな価値が生まれていくと感じております。

募金は単なる資金的なご支援ではなく、「未来を託す」という意思の表れであり、社会への責任を果たす一つの行動でもあります。稲門会の皆様からその輪を広げていただくことが、やがて校友全体へ、そして社会へと広がり、未来を形づくる大きな力になると確信しております。

私自身、総長室社会連携課に所属し、大学と社会、そして校友の皆様をつなぐ役割を担っております。日々の業務を通じて、早稲田で育まれた縁の確かさと、その広がりを実感しています。このつながりを次の世代へと丁寧に引き継いでいくことが、私たちの責任であると考えています。

150周年は、新たな未来への出発点です。かつて早稲田で学んだあの時間、あの空気を胸に、それぞれの場所で歩み続けておられる皆様とともに、『Change Today, Shape Tomorrow』を体現してまいりたいと考えております。

本事業募金では、ご希望の用途を、A 大学全体の貢献・教育・研究事業、B 西早稲田(理工)キャンパス再整備、C 早稲田大学高等学院第Ⅲ期整備の三つからご選択いただけます。また、銘板による顕彰制度をご用意しており、さらに個人のご寄付を所属団体(公認会計士稲門会)の実績として積み上げる制度も設けております。

個人のご寄付を公認会計士稲門会の実績として加算することを希望される場合、個人が寄付を申し込む際に、通信欄に「公認会計士稲門会」とご記入ください。なお、銘板の設置場所は寄付金の用途(A~C)ごとに異なり、用途ごとの累計寄付額が基準額を満たした場合に、銘板を設置いたします。

■募金の用途と銘板の設置場所

募金の用途		銘板の設置場所
A	大学全体の貢献・教育・研究事業	→ 早稲田キャンパス
B	西早稲田(理工)キャンパス再整備	→ 西早稲田キャンパス
C	早稲田大学高等学院第Ⅲ期整備	→ 早稲田大学高等学院

皆様の温かいご理解とご支援を、心よりお願い申し上げます。

◆お申込み方法

<https://www.waseda.jp/150th/donation/>

◆寄付銘板での顕彰

<https://www.waseda.jp/150th/donation/privilege/plate/>

◆稲門会様向けの顕彰制度

<https://kifu.waseda.jp/application/files/9217/6517/4510/dantai150.pdf>

「キャリアサポート部会および 懇親部会の活動について」



小林 尚明
(CPA 研究部会 副会長)
(1992年 商学部卒業)

キャリアサポート部会および懇親部会を担当しております副会長の小林尚明でございます。本稿では、それぞれの部会の活動状況についてご報告申し上げます。

まず、キャリアサポート部会についてです。本部会は、附属校・系属校の生徒の皆様には「公認会計士」という職業の魅力を知らいただき、将来の職業の選択肢を増やしていただくことを通じて、稲門出身の合格者を増やすことを目的として活動しています。従来は「CPA 研究部会」という名称でしたが、活動内容をより直感的に理解していただけるよう、現在の名称へと変更いたしました。

活動の主軸は、附属校・系属校への訪問によるキャリアセミナーの実施です。現在は、早稲田大学高等学院、本庄高等学院、早稲田高等学校、早稲田実業学校、早稲田佐賀高等学校の5校を対象としており、それぞれの学校出身の常任幹事の皆様にご協力をいただきながら、各校につき少なくとも年1回の訪問を行っております。セミナーでは、資格取得までの道りに加え、公認会計士の具体的な業務内容やキャリアパス、監査に留まらない多様な活躍の場についても紹介し、生徒の皆様にとって将来の進路の選択肢の一つとして会計士という職業を具体的にイメージしていただくことを意識しています。

私自身も本庄高等学院の出身であり、同校では本年2月にキャリアセミナーを実施いたしました。土曜日の放課後という時間帯で、かつ任意参加という条件にもかかわらず、50名近い生徒の皆様にご参加いただきました。セミナー後の質疑応答においては、「監査以外のキャリアにはどのようなものがあるのか」「学生時代にどのような準備をすべきか」といった具体的

な質問が多く寄せられ、関心の高さがうかがえました。また、後日個別に連絡をいただき、さらに詳しい話を求められるケースもあり、本部会の活動が単なる単発の説明にとどまらず、生徒一人ひとりのキャリア意識に着実に働きかけていることを実感しています。

こうした活動は短期的に成果が見えにくい側面もありますが、附属校・系属校との継続的な関係構築を通じて受験者層を厚くし、将来的な合格者数の増加につなげていく上で、大変重要な取り組みであると認識しています。

次に、懇親部会についてご報告申し上げます。本部会は、会員相互の懇親を深め、ネットワーキングの機会を提供することを目的として活動しています。校友会の価値の一つは人と人とのつながりにあり、その価値を実感していただけるよう、単なる総会にとどまらない多様な企画を実施しています。

昨年度は3回の企画を開催いたしました。第1回は、早稲田大学ラグビー部元監督の中竹竜二様をお招きし、「公認会計士に求められるコーチングスキル」をテーマにご講演いただきました。監督時代のご経験に基づくお話は大変示唆に富むものであり、講演後の懇親の場も含め、参加者同士の活発な交流が行われました。

第2回は、丸井グループ執行役員の青木正久様にご登壇いただき、上場企業における経営の実際や新規事業への取り組みについてお話しいただきました。上場企業の経営者という視点からのご講演は多くの参加者にとって有益であり、講演後の交流の場においても大変有意義な議論が交わされました。

第3回は若手会計士による懇親企画を実施しました。詳細は、本会報の別稿をご参照いただければ幸いです。若手層の参加促進は重要なテーマであり、本年度からは国家試験合格後1～2年程度の若手会員を常任幹事としてアサインし、若手主体で企画をリードしていただく体制を整備しました。これにより、これまで参加の少なかった世代にも活動の魅力を感じていただき、世代を超えたつながりの強化につなげていきたいと考えています。

懇親部会においては、会員の皆様にとっての参加価値を高めるべく、引き続き魅力ある企画の充実に努めてまいります。

今回のご報告は以上となります。引き続き、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

「未来へつなぐ稲門の繋がり」



朝熊 勇斗
(2025年会計研究科卒業)

木村 航貴
(2025年政治経済学部卒業)

櫻井 陽太
(2025年会計研究科卒業)

この度、若手主催・公認会計士稲門会懇親会を開催させて頂きました。当日は、世代や所属を超えた多くの先輩方、同世代の方々にご参加頂き、終始和やかで活気ある会となりました。

本懇親会は、公認会計士稲門会という活動がある一方で、既知の顔ぶれが多いことや、若手にとっては関心があっても参加のハードルが高いという声をきっかけに企画いたしました。私たちはこれ

まで稲門会への参加を通じ、多くのご縁や学びを得てきたからこそ、この繋がりをさらに広げ、諸先輩方が築いてこられた稲門会の文化や想いを次世代へ受け継いでいきたいと考えました。

当日は、監査法人、事業会社など多様な分野で活躍されている先輩方のお話を伺うとともに、近い世代の仲間とも交流することで、日常業務では得難い視点や経験に触れる大変貴重な機会となりました。慣れない中での開催準備は決して容易ではありませんでしたが、終了後に「新しい機会を得られた」「ぜひまた開催してほしい」といった声を多く頂き、大きな喜びと達成感を感じています。また、「稲門」という共通の背景があるからこそ、初対面でも自然と会話が弾み、率直な意見交換ができたことが強く印象に残りました。

今回の懇親会を通じ、改めて稲門会の繋がりの強さを実感しました。今後もこのご縁を大切にしながら、若手として積極的に交流の場づくりに貢献してまいります。最後に、ご参加頂いた皆様、そして日頃より稲門会を支えてくださっている諸先輩方に、心より御礼申し上げます。

会計士業界を牽引する存在が「早稲田」であり続けることを信じ、その未来を支える現役世代として、稲門会の価値を次世代へと繋いでいきたいと考えています。

■ 懇親部会主催 懇親会

令和7年6月23日 第1回 早稲田大学ラグビー部元監督 中竹竜二様 ～公認会計士に求められるコーチングスキル



令和7年9月16日 第2回 丸井グループ執行役員 青木正久様 ～上場企業における経営の実際や新規事業への取り組みについて



令和8年1月9日 第3回 若手会計士による懇親企画



□ 令和7年7月10日 総会・懇親会



総会



ご来賓挨拶



校歌斉唱

会報のWEB閲覧化（一斉郵送停止）のご案内

昨今の物価上昇や郵送費の高騰に伴い、誠に勝手ながら、今回発行の会報より原則としてWEB閲覧へと移行させていただくこととなりました。これに伴い、会報の郵送につきましては、①年会費をお支払いいただいている会員（維持会員）のうち、②郵送を希望される方に限定させていただきます。会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、宜しく願いいたします。

※ ホームページでPDFを閲覧できます

■ ホームページのURL

<https://www.cpa-tomonkai.jp/category/report/>



7月15日までにご登録いただければ、その年の会報を8月に発送させていただきます。

- ①年会費をお支払いいただいている会員（維持会員）または年会費支払を開始される会員で、
- ②会報郵送を希望される方は、以下のURLのフォームよりお申込みをお願いいたします。

■ 会報郵送希望のお申込みURL

<https://forms.gle/rB2DmQvvCbkrPYek6>



※年に一度の会報発行は、公認会計士稲門会の会員に公認会計士稲門会の活動を知っていただく大切なコミュニケーションの機会とも考えており、これからも継続していく方針です。

登録メールアドレス及び登録住所変更時のご連絡のお願い

メール・ニュースの配信や会報郵送（希望する維持会員向け）のため、メールアドレスまたは登録住所を変更された際は、以下のいずれかの方法で事務局宛までご連絡をお願いいたします。

メール : cpatomonkai@cpatomonkai.site

ホームページ : <https://www.cpa-tomonkai.jp> の「お問合せ」フォームより

（アクセス手順：HOME ⇒ お問合せ）

令和8年 定時総会のお知らせ

【1 令和8年 定時総会・懇親会開催概要】

開 催 日 : 令和8年(2026年)7月14日(火)

● 定時総会 18時30分～19時20分(受付18時00分～)

● 懇親会 19時30分～21時00分

会 場 : 大隈会館201・202号室

参 加 費 : 公認会計士…10,000円・準会員…無料

申込み締切り : 6月30日(火)

【2 参加申請・お支払方法】

● Peatixでのチケット購入

令和8年 定時総会・懇親会のチケット購入URL

<https://cpatomonkai20260714.peatix.com>



※ 昨年は Peatix 定時総会イベント申込時に 2025 年度の年会費についてもセット
支払いとしていました。2026 年度からの年会費は、Peatix 定額課金プランへご
登録頂くことで、5%割引きで自動引落しできるようになりました。

Peatixでの年会費・定額課金プランのURL

<https://peatix.com/group/16436633/subscriptions>



年会費の支払についてのお願い

当年度稲門会年会費(公認会計士8千円、協会準会員4千円)につきまして、① Peatix 定額課金プラン(5%割引・自動引落し)を利用したお支払い、②銀行のATMやインターネットによるお振込み(銀行振込)、③郵便振替用紙(郵便振替用紙でお支払頂いている一部会員の方へ郵送)によるお支払のいずれかの方法で、お支払いをお願いいたします。

① Peatix 定額課金プラン登録による自動引落し

Peatix での年会費・定額課金プランの URL :

<https://peatix.com/group/16436633/subscriptions>



② 銀行振込

ゆうちょ銀行(9900)・店番(019)・店名(〇一九店/ゼロイチキウ店)

預金種目(当座)・口座番号(0163893)

口座名:公認会計士稲門会

ゆうちょ銀行同士では、口座番号は 00170-2-163893 です。

公認会計士稲門会は、主に会員の年会費により運営されています。さらに充実した活動を目指しておりますので、会員の皆様方には、ご理解ご協力の程、何卒宜しく願い申し上げます。

— お問合せ先 —

JBA グループ 脇 一郎(相原) E-mail cpatomonkai@cpatomonkai.site

■ 編集後記 ■

協会長の2年目となる2025年度は、会報閲覧のWEB化(一斉郵送の廃止)や、ウェブツール「Peatix」を利用した年会費の自動引落しなど、会長主導の新しい取り組みを行いました。さらに、懇親部会による懇親会の開催(第1回「公認会計士に求められるコーチングスキル(講師 中竹竜二様)」、第2回「上場企業における経営の実際や新規事業への取り組みについて(講師 青木正久様)」)、懇親部会若手幹事による「若手主催・公認会計士稲門会 懇親会」の開催など、役員主導の活動が更に活性化した年度であったと思います。イベント等にご参加できなかった会員の先生方にも、会報を通じてその雰囲気を感じてもらえたらうれしく思います。

寄稿者のうち合格者については、各監査法人の公認会計士稲門会役員の皆様にご選定のご協力を頂きました。寄稿者および推薦者の皆様、ありがとうございました。

(広報担当 抜水信博、小口 敬、江黒崇史、高島知治、高山清子)(印刷会社 三共総合印刷株式会社)